

スピーチコンテスト

西高の全生徒が自身の語りたいことを各クラスで発表し、代表の1名が、2次予選に参加する。2次予選では、先生方や生徒会役員が審査員になり、通過できた猛者だけが文化祭1日目のスピーチコンテストに出場できる。

今年のスピーチコンテストは、2年前からコロナ禍により縮小されていた規模を元に戻すことに努めた。本選出場者の人数を5名から7名に戻したり、全校生徒の投票によって受賞者が決定される「特別賞」を復活させたりなどだ。コンテストでは、授業中にギャグをして滑り、心をすり減らす先生方を救済する制度の提案をする発表者、電車内でトイレを我慢する苦しさや焦燥感に苛まれるあの時間を講談調の話し方でその場に作り出し、会場を引き込んだ発表者など、7名が洗練されたスピーチを行った。その7名から審査員評価1位の最優秀賞、2位の優秀賞、そして前述した特別賞の受賞者のお名前と一言コメントを載せておくのでご覧いただきたい。



最優秀賞 岡本拓己さん

陰キャでも羽伸ばせるので

頑張らしましょう。

最初は怖いと思うのですが、1回キメるとトリップするとか、もうこの快感無しには生きていけなくなるので皆さんも是非



優秀賞 石原葵さん

俺こそ
森羅万象



特別賞 阿部伊吹さん

階段アート・文化部展示

階段アート

今年度の新企画として実施されました。

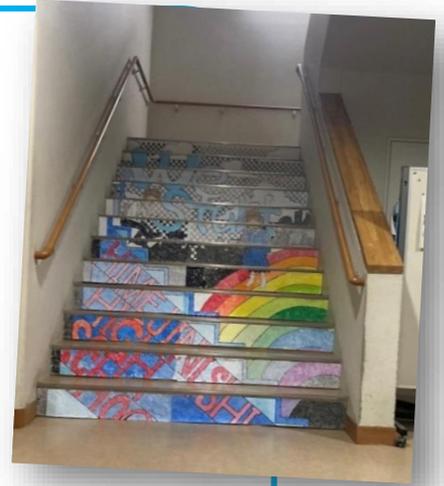
図案は、文化祭のテーマ"westart"を基に

76回生の樋口直太君によって考案されました。

全校生徒で作業を分担し、右の写真のように

綺麗に完成させることができました。

文化祭1日目に、いつもは飾り気のない階段を華やかに彩りました。



文化部展示

各文化部が日ごろの活動の成果を教室や廊下で展示を行いました。制作した物を展示したり、実験を行ったり、生徒へのアンケートの結果を掲示したりしました。

また展示に並行して、スタンプラリーを実施し、スタンプを集めた生徒に、葉が贈られました。



学年展示

文化祭1日目に2年生は旧クラス(1年生のクラス)で出し物を行う。今までは特に制限は無かったが、昨年度から新型コロナウイルスの影響で接触を避けるようになり映像作品が主流となった。今年度も全クラスが映像作品を創った。ここで「全クラスが映像って同じようなものばかりで面白いの?」という疑問が生まれてくるかもしれない。これにははっきりと応えられる。面白い!ひとくくりに映像と言えど、バラエティーやドラマなど様々な種類がある。クラスごとの色がある。同じようなものは一切ないのだ。

驚くべきことに映像は2年生が一から撮影・編集等を行っている。クラスによっては数10分にも及ぶ映像を寝る間も惜しんで創る。なぜそこまで頑張れるのか。これは私の考えだが、彼らにとってその映像はみんなに披露するためだけのものではなく、一生残る思い出として捉えているからではないだろうか。入学してからの全てを共にしてきた仲間との1年間の集大成、思い返すだけでもこみあげてくるものがある。

残った映像は後輩たちにも受け継がれて道しるべとなる。今の2年生が1年前に先輩方に魅せてもらったように。こうして西高では伝統が受け継がれていくのだ。これもまた何か1つの作品のようなものなのかもしれない。



実際の上映の様子